

# 丸山湿原群保全の会会報

(第 184 号)

発行日：2022 年 (R4) 11 月 16 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会  
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788  
090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:[maruyamashitugengun@gmail.com](mailto:maruyamashitugengun@gmail.com)



## 戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します！

COP27(第 27 回気候変動枠組条約締約国会議)が開催されました。世界のあちこちで紛争や戦争が起こっている中どんな内容になるか注目されます。今世紀末までに、産業革命前からの地球平均気温の上昇を 1.5℃までに抑えるのは無理では、という研究予想も出ました。(2.5℃上昇の可能性大 10/28 朝日新聞) せめて「2050年までにCO2排出実質0」は実現させたいものです。でも「0」は生活を変えると実現できる？生活の見直しと、先の技術に期待します。

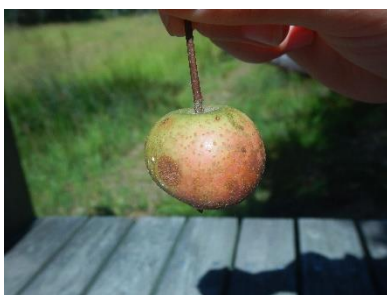
一方グリーンランドでは温暖化を前向きに捉え、溶けた氷床の下からレアアースや地下資源を利用してデンマーク自治領からの独立国を目指すとか。北極海航路の利用や経済は地球がどうなっても動き続けるようです。せめて人類存亡の危機に立ち向かう経済活動であってほしい。

暑い地域の発展途上国はどうなるのでしょうか。といっても私自身も心のどこかで何とかなると考えているようです。多分。いかな…人類存亡の危機か… (今住 11 月 15 日作成)

## 西谷小学校環境学習 ★10月11日(火) 西谷小学校 3年生 4年生 全部で 33名

宝塚市立西谷小学校、秋の環境学習です。今年度は複式学級編成の影響(おかげ?)で3年4年の活動となっています。前回の環境学習の時にも書いたかもしれませんが、本来西谷小学校は2年と3年の複式学級。2年に総合的な学習の時間がないため(カリキュラム)、3年4年の合同学習時間となっています。

兵庫県では連続する2つの学年が14名以下の場合に複式学級となります。(1年を含む場合は8名以下)中学校では今のところ基準なし。(1人でも単独クラス?)国の基準はもう少し厳しい。



児童撮影「ふぞろいのリンゴ」



水の魅力には勝てません

間違っていたらごめんなさい。複式学級のメリットもたっぷり。やり方次第です。すごい力がつかもです。

今回の環境学習には久しぶりに保護者も参加。しかし中途半端な季節。食べるものがたくさんあればいいのですが、ちょっと心配。アケビの数も少ない。そこでハイキングプランを用意。あまり行かない第2湿原視点場。尾根ルートで関西電力高圧線鉄塔下。南に回り込み第4湿原から第1湿原への周回コースです。

前回(6月)は3年生が大変おとなしかった印象。今回は誰が3年で誰が4年かわからないようになっていました。とにかく元気!4年生は慣れたもの、ガイド必要なし状態。ぐんぐん進んでいきますが「あの食べられる酸っぱい葉は?」(自分で見つけんかい!と思いながら…)から始まりました。優しく「これやで」と。しかし秋になり葉っぱは相当固くなっていました。「固いやろ?おいしいか?」の問いかけに「びみょう…」と。カンサイスノキ(関西酢の木)。ツツジの仲

間。まもなく紅葉して葉っぱを落とす木です。葉としての役割（光合成）はほぼ終了の時期になっています。

いつものように竹筒ポストに石を入れ、進もうとすると川が誘います。「今日は帰りにしましょう」と言うもすでに突入。前日の雨で水量は少し多いが何のためらいもなし。早速力二探し。「いない、いない」と言いながらもばっちりキャッチ。観察してみるとお腹の「ふんどし」が大きく全体を覆っている。「これはメスやな、お腹を見ればわかる」と話しましたがどうでもいいみたいです。子持ちサワガニ(沢蟹) やったらもっと感動したと思いますが、楽しかったら OK。ハサミに挟まれ泣きそうな子も。いいぞいいぞ。



サワガニ メス 「ふんどし」が大きい



全く攻撃性なし オオスズメバチ

第3 湿原に到着。ウメバチソウ(梅鉢草) が咲き始め。完全スルー。やはり動物と昆虫がいいようです。で、オオスズメバチ(大雀蜂) を発見。木の蜜を吸っています。昨年に引き続きスズメバチ類は本当に少なかった。安心ですがなぜ?と考えると心配も。この時期オオスズメバチの巣はほぼ役割終了。飛んでいるのは女王バチか毒針のないオスのことが多い。ちょっと早いかな?しかし攻撃性は感じない。よく生態を知りましょう。

もともと単独のオオスズメバチは攻撃性少ないからね。巣に近づいたり、巣をつぶしたとき、無理やり捕まえられたときは刺します。ハチ毒としては最強か?「手乗りオオスズメバチ」をする人が世の中にはいますので、仲良くなることも出来るかも。しかしドキドキやな。おすすめは致しません。自己責任で。いや、やってはいけません。

第2 湿原視点場到着。ここはかなり谷が深く、湿原観察というより高台からの眺めを楽しむ場所。ミヤマガマズミ(深山莢蒾) の実がたくさんなっていて試食。「酸っぱくておいしい」とのこと。好みですが。保護者の方も同じように味わったり、村の生活に欠かせないサカキ(榊) とヒサカキ(姫榊) の見分け方やシキミ(柘) についての質問もありました。「最近の若いもんはサカキ、シャシャキ(ヒサカキの方言) の見分けもできん」と長老がよく嘆いておられます。いかに人と山の付き合いが少なくなっているかがよくわかります。山遊び、大人も子どももやろうじゃないですか!そこらじゅう山なんですから。山村に住んでいるながら山を知らないのはもったいないと私は思います。個人の自由ですが・・・。私もそんなには知りませんが。

そして鉄塔付近へ。関西電力の保守がよくされています。ずいぶん前の鉄塔に付けられた動物の足跡を見て「電気を食べる怪獣ネロンガの足跡や!」と言っても誰も反応せず。「初代ウルトラマン」の時代やしな〜。おっと「シンウルトラマン」



天使が舞い降りた!



水筒にはヌマガヤストロー

にも登場してました。見てないのか?

そして第4 湿原から第1 湿原視点場へ。かなり疲れてきました。ひと休み。ときたら「ヌマガヤストロー」の登場。水筒に差し込み「チューチュ



センスのいいアレンジメント

ー」と。「ストローを差したままで水筒の蓋が閉まる長さに」との注文も。ストロー屋さんは大忙しでした。

その後帰途へ。が、再び川が待っていました。ほとんどの子どもたちが川へ。その様子を暖かく見つめる大人たちが印象的でした。(入ればいいのに・・・)

今日の給食はカレーとか、何とか間に合うように帰らなくて



お見送り 給食はカレー

は。バスの運転手さんもお待ちかね。駐車場に戻ってアケビ(木通)の収穫。あっという間に食べられてしまいました。早い者勝ち！ジャンボジャンケンでもしたらよかったかな？ま～来年探して自分で採って食べてください。いらんか？「カレーカレー！」保護者とスタッフが見送るなか帰って行きました。次回は冬。作業体験。頼りにしてまっせ。



本当は川に入りたい？大人たち

### 定期活動 ★9月25日(日) 歩道脇下雑木整理 9名で作業

駐車場から入ってすぐの平場。歩道わきのササから続く雑木の整理です。ヒメカンアオイをできるだけ傷つけないように作業を進めます。それほど広くもないのですが、とにかくノイチゴなどのイバラが行く手を阻みます。さらにイヌツゲ(犬柘植)、ヒサカキ、マダケ(真竹)などなど。フジ(藤 別名ノダフジ)も増えています。公園などに作られた藤棚や、「鬼滅の刃」での藤はいいのですが、山のフジは他の木を締め殺すようで私は恐怖を感じます。花は美しく香りも高く、昆虫にとってはとても魅力的な蜜源だと思えます。でも恐ろしい。だからではありませんが刈払い機と手作業で刈り取ります。刈り払い機で進んでいくと、蔓が絡んだりロッドに引っかかったりでなかなか進まず。少し進んでは片付け、少し進んでは片付けの連続です。片付けも棘が引っかかってとても面倒。積み重ねてさばいてしまうと何のことはないのですが。結構ストレスがかかります。



フジの締め殺しから開放

この平場を何とか開けた場所にしたいと思っています。ただ、開けると動物が気楽にお越しになる。



藪の下からヒメカンアオイが



そこそこ頑張りました 終了

藪を整理したところにはちゃんとシカの糞が・・・獣道も山から続いています。人が入りやすい所は獣も入りやすい。しばし留まり通過することが多いようですが、すっきりするとどうなるか？せっかくのヒメカンアオイ(姫寒葵)も食べられてしまうのでしょうか。調べると「腎毒性をもつアリストロキア酸などを全草に含む」ようなので残るか？でも「カンアオイ類は、通常はシカの不嗜好性植物であっても、冬季に他の植物の葉がほとんどなくなる頃にシカによって食べられ、その結果兵庫県の南但馬地域では、各地でギフチョウが絶滅していることを報告している」(森林野生動物研究会誌 41 2016年)で報告があるので、注意しながら今後見ていきましょう。今のところ食害は少ない丸山湿原ですが、注意注意！



ヒメアカネにも楽園になるかも

平場ですが一応細くではありますが開通はしました。さらに明るくしていく予定です。



ウメバチソウのお花畑

という状態です。早めの手当てが必要かと思えます。現在方策検討中。

午後ちょっと湿原を覗いてきました。ウメバチソウ満開近し！  
まだまだ咲きそうですが、この会報が発行される頃には終盤になっていそうです



まだ芯は強い？危なくなる前に…

気になるのは第3湿原上部の木道。設置後約10年経過しています。腐食が進み「危険かも？」という状態です。早めの手当てが必要かと思えます。現在方策検討中。

**定期活動** ★11月12日(土) 基礎調査 11名で活動

目的	市内	市外
丸山	31	61
ハイキング	67	56
散歩・登山	23	10

来場者数計 248人  
(竹筒ポスト集計)

場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
入口	10:00	20.4℃		
第3湿原	10:19	【12.0℃】	40.7 μS/cm	6.5
視点場	10:52	24.2℃	34.5 μS/cm	5.9
第1湿原	10:59	【11.6℃】	34.8 μS/cm	6.2
第2湿原	11:25	【11.0℃】	37.2 μS/cm	6.3

もう11月、秋も深まりつつあります。といっても気温は20℃越え。それでも寒暖差があるのか山は順調に紅葉しつつあります。



金色の野にウメバチソウ

それでも寒暖差があるのか山は順調に紅葉しつつあります。タカノツメ(鷹の爪)の黄色はキラキラと金色に輝いています。落葉からは発酵によるカラメル臭も。道への水のしみ出しはありますが、とにかく雨が少ない。湿原のEC(電気伝導度)も寒くなると低くなるのですが、先月より高い。全く問題のない数値ですが、降雨の極端化が湿原にどう影響するか？注意深く見ていく必要はありそうです。



山ゴキブリを1と数えるか？



丈の低いミミカギグサ

しかし、ウメバチソウは例年通り「これでもか！」という感じで開花。そろそろ終盤を迎えています。

秋は来訪者も多いと思いがちですが、意外にも「竹筒ポスト」人数では少ない。



ステキ！オオゴキブリ

ポストの人数を確認すると意外なものが…オオゴキブリ(大蜚蠊)。冬ごもりの場所を間違えた？動きは鈍く死んでいるのかとも。そっと逃がしました。この日は暖かかったのでどこかもっといい場所を見つけたことでしょう。多分。一応言っておきますが、オオゴキブリは山ゴキブリと言われるもので「キャー！」と騒がれるクロゴキブリやチャバネゴキブリとはちと違いますので。本質的には一緒か…。一般的に昆虫が好きの人からは「かわいい～」と言われていました。



水が…シカの足跡も白い



林縁にはヤマラッキョウ

この時期は地味な花が多いのですが、木々の葉が落ち始めてすっきりした景色が楽しめます。道場から千刈ダムを経由したハイキングコースもこの時期なら暑くも寒くも無く楽しめます。ぜひお越しください。

次回活動日 11月27日(日) 12月10日(土) 25日(日) あとは鬼が笑うから…